

日刊
ア新東京

No. 1357

2014年
5月1日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

廃炉 放射能とのたたかい

事故の後始末

4月20日からNHKのスペシャル・シリーズが始まった。タイトルは「廃炉への道」。

なかなかの力作である。
東日本大震災で福島第1原発三基がメルトダウンし、レベル7の最悪の事故が起きた。NHK取材班は原発3基の廃炉作業を徹底的に追いかけてゆく。番組では先例事故のスリーマイル島原発事故とチェルノブイリ原発事故も取り上げ、被害を被った人々にも焦点をあてている。

このシリーズは、廃炉の進捗状況に合わせ、随時編成し放送してゆく。私たちが原発に対して意識喚起をしてゆく上で貴重な番組といえる。

燃料デブリ

工程表では、三基の原子炉を除染↓格納容器の補修・水張↓燃料デブリの取り出し↓処分・解体となるが、この安全な状態になるまでおよそ40年かかるかと思われている。この年数が妥当なのかどうかは誰にも分からない。メルトダウンした3基を同時に廃炉にするのは、人類にとって初めての試みだからだ。中

でも困難を極めると言われているのが、「燃料デブリ」の取り出しだ。事故で原子炉を突き破り、格納容器に溶け落ちて固まった核燃料である。数万年にわたり人が近づけないほどの強い放射線を出す厄介な塊。このデブリを取り出さなければ廃炉への道は閉ざされてしまう。

このデブリの取り出しには先例がある。1979年に米国のスリーマイル島で起きた原発事故だ。1基の原子炉がメルトダウンによって冷却水が減少、核燃料がむき出しになった。原子炉の底は損傷もなくすぐに冠水できたが、それでも核燃料の半分(約100トン)が原子炉の底に溶け落ちていた。放射線物質の放出は比較的少なかったが、核燃料が溶けた金属と一緒に固まり、より硬いデブリがで

きてしまった。取り出しが始まったのは事故から6年後。取り出しに成功したものの、原子炉の解体には至っていない。

福島第1原発の事故は、より深刻だ。核燃料が原子炉の底を破り、格納容器まで達しているため、30メートルの高さからデブリを取り出さなければならぬ。その量、3基合わせておよそ270トンになる。

立ちはだかる難題

格納容器の周辺は、放射線量が高いので人が長時間立ち入ることができない。まずは瓦礫の撤去と除染である。さらに損傷した格納容器を補修し、水張（冠水）をしなくてはいけない。デブリを砕いて取り出すにもデブリの状況を調べる必要がある。人の代わりとなるロボットの開発も急がなくてはならない。ま

さに立ちはだかる難題に手探り状態で進むことになる。

この事故の収束に向けて1日4000人が作業にあたっている。原発作業員は、被ばく線量が限度に達すれば現場を離れなくてはいけない。つまり、廃炉作業が進むにつれ熟練作業員が不足する未来がやってくるということだ。廃炉作業は民間企業の事業のため、国からの手当は出ない。東電を頂点に、重層下請構造の中で減額されていく賃金で、作業の担い手がいなくなるおそれも指摘されている。

脱・原発回帰へ


チェルノブイリ原発事故は、今も廃炉作業の見通しがたたず、内部は手つかずのままだ。今後、100年かけて廃炉作業に着手しようとする段階だ。

事故は何であれ、100%防

げるものではない。まして原発事故は、起きれば取り返しのつかない事態に陥ることは自明の理である。スリーマイル島原発事故の原因は、人為ミス。一方、原子炉の構造的な欠陥であった。福島第1原発事故は、地震、津波による多重事故で原因の特定が難しい。根本的な原因解明と対応策が置き去りにされたまま、政府は原発を重要なベースロード電源と位置づけ、再稼働を推進しようとしている。

地震国日本に安全な場所などあるわけない。私たちはむしろ、自然エネルギーの開発に力を注ぎ、原発に依存しない社会を目指すべきだ。廃炉作業に伴う全ての技術を世界へ輸出するといふのはどうだろうか。

（あきべえ）

日 刊		No. 1 3 5 8	2014年5月2日(金)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
		03-5606-6784	内線 4353

JPsmailプロジェクト①

JPsmailプロジェクトの一環で、4月20日(日)、21日(月)の2日間福島の出向きました。前述しておきますが、原発に関してはナチュラルな考えしか持っていませんでした。

福島駅からレンタカーで一路宿がある南相馬市原町区南町へ向かいました。福島第一原発から30キロ圏内には「緊急時避難準備区域」20キロ圏内では「警戒区域」に指定されている場所をある時には許可を得ながら走行しました。

現在も封鎖中の郵便局があり車から降りてみました。避難をして人が住んでいない地域であるのは分かっていた。すぐに違和感として感じたことは音が無いということでした。一般的な昼下がりには小鳥のさえずりがあったり、何らかの音が耳に入りますが通り過ぎる車が居なくなると何にも音がしません。

人類の生態系で一番敏感に反応を示すのは小動物と言われていますが、自分のなかで「ゾワゾワ」した言われようもない感覚でした。

福島以外の被災地では3年が過ぎ復興が進んでいる状況がニュースになりますが、放射能汚染された福島のことをニュースになることが極端に少なく感じます。放射能汚染で復興への道筋も示せていない状況もあるのかもしれない。

しかし、東京電力の電力で暮らす首都圏の人々が無関心でよいわけがありません。今一度、国の電力政策等に関心を持ち、個々が考えるときであるように思います。

また、地元の人たちと話をすると風評被害を解消できないかと多く話をされます。今回のJPsmailプロジェクトでの行動を自分で考え、発信していくことが微力ですが風評被害の解消に向けた行動となればと思っています。

最後に福島の復興したくてもできない状況を風化させることなく、正確に伝えることで末永い支部活動になればと感じていますので、皆さまのご理解・ご協力をお願い致します。

Love ∞ Peace
FUKUSHIMA

(投稿M)

日本郵政グループ労働組合新東京支部皆様へ

〈中央ろうきん〉

緊急生活応援ローン

●最長10年 ●無担保 ●固定金利型

年1.2%

※別途保証料 年0.7%が上記金利に上乘せとなります。
原則、金庫所定の機関保証をご利用いただきます。

最高100万円

〈中央ろうきん〉亀戸支店へ

担当：中村

TEL：03-3681-4136

 ろうきん
(2014年4月1日現在)

- ご利用できる方
〈中央ろうきん〉と協定書を締結した団体会員*の直接構成員の方。
- ご利用目的
勤務先企業の倒産で借金がたまり、または返済が滞り、当面の生計維持を図るための資金。
*ただし「ろうきんローン」の返済資金はご利用できません。
*ご利用には一定の条件がございます。
*2015年3月末現在(貸付総額)

日 刊
ア
新東京

No.1359

2014年
5月7日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

**福祉施設南相馬ファクトリー「えんどう豆」は元気いっぱい
心ひとつにカンバッチの作成元を訪問**

J P S m i e プロジェクト②

南相馬2日目は、今回のメイン行動の一つの「南相馬ファクトリー」の訪問でした。

南相馬ファクトリーとは、東日本大震災復興支援プロジェクトの一つとしてスタートしたもので、震災で壊滅的状况に陥った南相馬の福祉作業所に仕事をし、施設を利用する方が少しでも安定した生活ができるよう活動しているそうです。

南相馬ファクトリーは6つの工房の集合体で、私たちが訪問した原町区には「ほっと悠」、

「ひばりワークセンター」、そして今回訪問した「えんどう豆」があるそうです。「えんどう豆」は、中でも重度の障がいの方が働いている工房だそうです。

工房の外観は小さいながらも落ち着く色合いのおしゃれなウッドハウスでした。玄関をたたく時、自分たちの訪問に大きな不安を感じましたが、その感情は全くの無駄でした。扉を開けた瞬間、「こんにちわー」と元気な声で迎えてくれ、足早に玄関まで駆けつけてくれました。

工房内では、缶バッチやマグネットのデザイン部分を切り抜いていたリ、缶バッチ本体部分を機械で作成していたリ、機械の道具を使って糸をつむいでいたり一人ひとりが真剣に作業していました。それぞれにエキスパート部門があり、切り抜きが上手い人、バッチの作成が早い人、絵を描くのが上手な人と色々あるそうです。

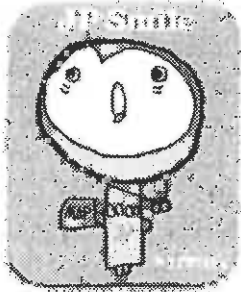
特に今回、新東京支部で5月25日(日)に実施する「みんなでまちをきれいにする行動」のユニフォームとして作成を依頼したTシャツのデザインを描いたくるみさんは、もともと両親の仕事の都合で早い時間に工房にくるため、作業前に絵を描かせていたのが、いまや大人気となったそうです。

今回、訪問した目的は、心ひとつに運動とJPsmieプロジェクトを連動させるこ

とにありました。一つは、南相馬ファクトリーへのTシャツ発注で東北復興支援の「心ひとつに運動」、一つは、そこにTシャツという形でユニフォームを作成し、まちきれ行動に参加する「J P s m i e プロジェクト」。この選択は正しかったと確信できた訪問でした。

私たちが訪れた際の出来事が、えんどう豆のブログに掲載されました。震災以降、大変な想いをされながら、仕事に従事していた相双支部の組合員の姿を改めて思い起こし、今後末永く復興に向けて一緒に歩いて歩んでいかななくてはならないと決意しました。

必要はて
めはて
た方え
のるえ
把握す
ずるに
Tシャツ
数参加
早め教
下さい!!



JP労組の皆さん



JP労働組合の皆さんが、南相馬にひまわりの種を持って来て下さいました。Tシャツを作る話になり、たきざわくるみさんにイラストをお願いしたい依頼されました。2日間に2枚の絵を書きました。彼女のオリジナリティは、ピカイチですね。CHIEさんの接待もピカイチです。

原発事故後、この地域は配達が全く出来なくなり、不便な時期がありました。郵便局を引っ越しして、避難先で再開した局もあります。放射線量の高い地域で、郵便配達をしている姿を目にした事もあります。配達される事が、あたり前のように思いますが、何かとお世話になっているなぁと感じます。ゆうびんさん、ありがとうございます。

ブログ えんどう豆日記より

2014年5月25日(日)

「みんなでまちをきれいにする運動」参加者募集!

○参加者には新東京支部特製「J P s m i e Tシャツ」プレゼント。

詳細は支組・分会役員にお尋ね下さい。

日 刊
ア
新東京

No.1361

2014年
5月9(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線4353

あの日から3年の年月は……

はじめて震災後の福島を訪れて感じたこと(参加者投稿)

Jpsmileプロジェクト④

4月20・21日の2日間、福島県南相馬市各所を訪れて、東日本大震災の爪痕を目の当たりにして参りました。

2011年3月11日に起きた、福島県沿岸部の津波・地震災害、そして福島第一原子力発電所の爆発事故ですが、率直な感想を言いますと、

「3年経った今でも、状況は改善していない」ということです。

震災当日、私は渋谷の某家電量販店に勤務しており、お客様の避難と震災の状況を伝えるべくTVコーナーに待機しておりました。閉店後は渋谷から当時の居住地である横浜まで、8時間かけて徒歩で帰宅しました。他にも大勢の方が、同じく徒歩での帰宅を余儀なくさせられました。帰宅できない距離の方は会社などに泊まったり、カラオケ店やマンガ喫茶などで一夜を明かしたようでした。

そのような、日常では考えられないような経験をしたにもか

かわらず、現在はほぼ日々の話題にも関わらず、震災前と同じような日常を送っています。

私もそうでした。

ところが、福島はそんなことはありませんでした。全く生活感のない、死んだような街並み。沿岸部に今も残る、未だ片づけられていないガレキの山。決壊したままの防波堤。傷だらけになり、中のお骨も何もかも全て流されてしまった墓石。住宅がすべて流され、広大な荒れ地に散乱する車と船。体育館の床に穴が開いたまま、ガラスが割れたまま、ランドセルが転がったままの小学校。全てそのままでした。



そして、至る所にある「除染作業中」ののぼりや、防護服を着た人。放射能災害が深刻化するのはいくから、と言わざるを得ません。

そういつた状況を目の当たりにして、精神的に疲れ果てた後、夕食を共にした

相双支部の方たちのお話を聞き、

全く明かりのついていない商店街でただ一軒営業していたスナックのママの明るさに、僅かな光明が見えたのも事実でした。



翌日は南相馬ファクトリーの皆様とのふれあいでほっこりする反面、希望の牧場での「原発に対する静かな怒り」にもふれ、2日間心を揺さぶられ続けまし

た。

南相馬ファクトリーで感じた、「私たちにも何かできるかも知れない」ということ。

そして希望の牧場で感じた、「私たちには何もできないかも知れない」ということ。

この2点の矛盾した感情が交錯し、葛藤しています。

そこで、「できること」を少しでもいいから見つけていくこと、それ以前にこの震災を「忘れないこと」が、私たちがなすべき在り方だと考えました。どうか、多くの人たちがあの日のことを「忘れないで」いてあげてほしいと、切に願います。

以上

今回、J P s m i i e プロジェクトの活動を理解していただき、訪問を決意してくれた若き組合員からの感想でした。



南相馬ファクトリー6施設のうちの一つ「えんどう豆」。缶バッジやマグネットの他、機織りでバッグなども作っていました。

急遽、訪問することになった「希望の牧場」の牛たち。牧場主さん曰く、(この牛には価値は全くない、ただ、生きていただけ。)



風化させない
被災地の郵便局は今

新東京支部
島山 徳教 支部長



・支部内の郵便局の状況

例えば吉田浜局は震災後、沿岸部から山側に移り、仮設局舎で営業を再開したが、その場所に仮設住宅があるため、かえって利用者が増えている。将来的には元の場所には戻らず、利用者が見込める所に本設置するのが良いのかもしれない。

・仮設住宅に住んでいる組合員は

震災直後は仮設住宅に住んでいた方もいたが、現在はなくなった。

・震災後、困ったこと

震災後に津波警報が出たことがあったが、その時事業会社と局会社で対応が統一できていなかった。業務優先か人命第一かで管理者の認識がまちまちだった。避難訓練はしていたもののその通りにいかず、建物が古いため、みんなが階段に殺到しパニックになってしまった。災害の種類によって必要な対応は変わるため、局ごとの意識の差も出てくる。自治体の定めた避難場所が適切でない場合もあり、その安全性も見直しが必要である。火事・地震・津波と状況に応じて避難場所を決めておくべき。災害に対する意識を共有しないと、いざという時に困る。沿岸地域配達時などは、集合場所をあらかじめ決めておけば安否確認

が取りやすかったと思う。

・2年前のインタビュー時と比べて、変わったこと、変わらないこと、また、良くなったこと、悪くなったこと

変化はわからない。2年前と比べて何も変わっていないようにも感じる。ただ、震災について話す機会は減っている。いまだに震災の映像を見たくない、思い出したくないと思う気持ちがある。

悪くなったのは、地震に慣れてちょっとの地震では動じなくなってしまうこと。今後似たような揺れが起こっても、きちんと対応できるか難しい。

良くなったのは、仮設局舎から本設置のめどがたつようになった。復興・復旧・再生が少しずつ目に見えるようになってきた。

・復興していく中で一番大変だったこと

営業面でお客さんが減ってきている。1年目は震災の影響を考慮されて営業目標が減らされたが、2年目からは元に戻り、目標と現状のアンバランスが生まれている。配達も数は減っているが、転送など細

かい業務が増えた。

・今一番取り組むべき課題

震災を風化させない意識が何より大切。犠牲になった組合員もいらっしゃるので、心ひとつに運動で九州・沖縄を訪問し、命を大切にしていける取り組みについて話をさせてもらった。JP労組の仲間支援にいただいたので、被災支部として感謝の気持ちを発信していきたい。災害時に何が必要か、他地域組合員の参考になるような情報を発信していけたらいいと思う。

また、今度災害が起きた際にはスピーディーな対応を取れるようにする。連絡・安否確認・支援物資対応等、あらゆることに迅速に対応できるようにしたい。

・JP労組に期待すること

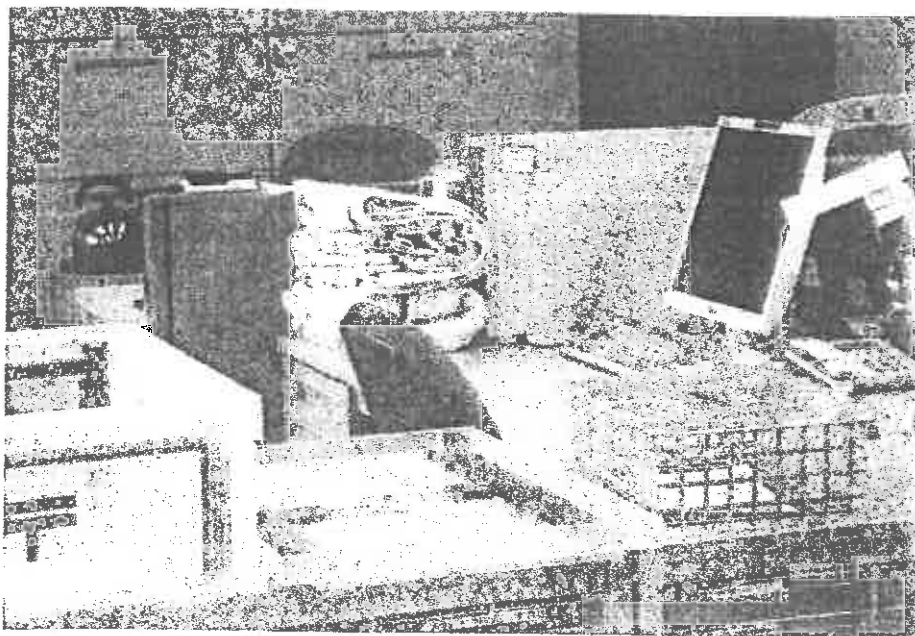
「心ひとつに運動」は3年で区切りとな

るが、せっきく他の地方の仲間と接する機会ができたので、これからも続けていきたい。南海トラフ地震の対策で協力・連携できればうれしい。震災の経験を生かして、みんなに伝えられるような運動をしたい。JP労組は大きい組織なので、横のつながりを大切にして情報を発信していきたい。

・全国の仲間へメッセージ

全国からのご支援は本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱい。実際に自分たちが体験して思ったことは、災害はいつどこで起こるか誰にもわからない。常に心の備えをしてほしい。また、実際に災害が起こったら命を大切に行動してほしい。

できれば、全国の仲間が被災地を訪れ、自分の目で見て、その見たことを持ち帰り、周りの仲間に話して共有してほしい。風化を止めるには、話をし続けるしかない。



吉田浜局(宮城郡七ヶ浜町)の仮設局舎では寒すぎてサーバーが故障することがあるので、夜間は毛布をかけて温めている。

日 刊	新東京	No. 1363	2014年5月13日(火)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
		03-5606-6784	内線 4353

羽田分室にて 第6回支部執行委員会を開催

4月24日(木)、第6回支部執行委員会が開催されました。今までは局舎の会議室にて行ってきました。ですが、気軽に行ける場所ではないことで羽田分室との交流がなかなか出来無い現状や、現地に行った事がない執行委員が数多くいたこともあり、会議と現状視察を兼ねるため羽田での開催となりました。

当日は、アメリカ大統領オバマ氏が来日していた時期でもあり、空港内も緊張感が漂う雰囲気を感じました。局舎に出入りする際は厳重な警備となっており、氏名や団体名・連絡先等を記入しないと入れないこともあり、空港内に隣接する郵便局として驚きや慣れない為の戸惑いを感じました。

会議では、前回から地本の役員も執行委員会にできるだけ参加する方向となったこともあり、出席できる執行部・地本あわせ19名での会議となりました。

支部長・書記長会議の報告として、「郵政退職者の会」の設立に向けての状況と今後のスケジュール確認、3.11を風化させないためにも継続した支援と行動、それに伴い第2期まで終わったボランティア活動の報告と今後の日程、共済活動の充実、6月の定期全国大会に向けた東京地本3万2千名組織拡大に向けた取り組み強化、郵政みらい研の理解浸透に向けた取り組みの確認、多くの組合員が関心・興味があるであろう新西東京郵便局の進捗状況と今後の展開等、地本役員の意見も含め各種の報告がありました。

新西東京については、まだ詳細が降りてきてない現状がありますが、〒16・17・18地域を処理する予定、交通の便がよくなることへの対応策、金銭的な部分の交渉等、来年度の完成及び運営に向けて精力的に話を進めていく重要性を求めつつ、決まった話は早急に組合員に情報提供していく体制作りを執行部でも確認しました。

年間一時金については、夏1,65ヶ月・冬1,85ヶ月となる事。今年度の36協定締結における評価と反省。4月6日に支部レクとして開催した牛久バーベキューの反省等も皆で話し合いました。

J Pスマイルプロジェクトとしては新東京支部がチャレンジ支部に選ばれた事もあり、4月18～19日にかけてチャレンジ代表合同会議に出席した代表者から報告がありました。全国から23支部の代表者が集まり地域・社会貢献活動の重要性、活性化による過疎化を防ぎ組合員の雇用を守っていく考えが示されました。深く考えると小さな行動がどこか繋がっている事実もあり、それに伴い新東京支部としての行動として5月25日の「江東区まちをきれいにする運動」への参加があり、現在の進捗状況の報告もありました。他には、4月20～21日にかけて支部の有志が集まり、昨年ボランティアとして行った南相馬市に視察にも行きました。参加者の感想は日刊紙として報告しましたが、江東区まちきれで着るTシャツのデザインを担当してくれる南相馬ファクトリーに見学にも行きました。参加した執行委員からは各々感じた思いを発言し、執行部で意識の共有を図りました。

その後は各部から報告や伝達を行い、女性フォーラム関係としては、9月か10月の秋頃に今年も女性組合員対象のレクを行いたい方針が出され、継続した取り組みの重要性を確認しました。

今後の日程等を話し合った後は、羽田分会の岸分会長や小林執行委員の先導のもと、初めて見る羽田の作業場見学を行い、問題点の洗い出し、共助共演が前提の職場において繋がりが大切なことを各々感じることができる良い機会となりました。



郵便内務作業の能率調査が実施されます

あつという間にゴールデンウィークが過ぎ、日に日に春の心地よさから夏の訪れを感じる季節となりました。

職場によっては、夏期繁忙を控え準備に忙しくされている方もいらっしゃるでしょう。

また、新たな業務が増える中、これまでの作業方法を見直し取り込まれていることと思います。

そのような実態もあり、東京支社から地本に対し能率調査の実施について情報提供がありました。

内容は、システムや必要労働力算出に用いている現在の郵便内務の作業能率について、システム及び処理方法の変更等により一節能率に反映していない作業工程があることから、作業能率を実態に即したものに見直すため、能率調査を行うというものです。

地本としても必要な調査と了承されました。

新東京局も対象であることから、お知らせを致します。

- 1 調査実施局
東京管内：新東京の他、渋谷及び赤坂郵便局の3局（全国で40局が対象）
- 2 調査日
2014年5月21日（水）及び22日（木） ※新東京
- 3 調査項目等
大口郵便物等の窓口引取に係る作業
※なお、当局においては次の①及び②の調査が実施されます
○調査項目：①単位能率調査
②工数郵便物数調査
③実働時間調査
④代表物数調査
- 4 調査内容説明
(1) 単位能率調査・・・※並局対象
1通当たりの作業能率を求めするため、調査対象作業の被調査対象者を複数測定し、ストップウォッチにより、処理時間と処理物数を調査する。
例えば、区分の場合は、ケースから郵便物を1つかみ手に持ったときから、1つかみの郵便物を区分し終わるまでを一周期として、「所要時間」と「区分物数」を調査する。（調査測定回数30回以上）

(2) 工程別物数調査・・・**※調査対象**

作業の発生割合を求めるため、調査対象作業ごとに便別又は時間帯別に物数等を調査する。

(3) 実働時間調査

前記1の 単位能率の速度は、作業そのものを行う時間であることから、扉の上げ下ろし、手待ち、重労働、運搬、移動等一連の作業を行う中で必ず発生する要素を含めて作業能率を設定する必要がある。そのために調査対象作業の従事者全員の実働時間の内訳（基本作業、運搬作業、移動、雑務別）を種類別・事務別に調査する。

なお、調査は社員個人に張り付けて当該社員の1日の実働時間を調査するのではなく、作業エリアごと調査員を配置し、働いている社員全体の実働状況を調査する。

(4) 代表物数調査

代表物数とは作業工程表の代表となる物数（設定能率に対応する物数）であり、物数調査の調査対象物数である。代表物数調査は、実働時間調査の対象郵便物について、1日の物数を種類別・事務別に調査する。

調査方法は、物数調査と同様であるが、できる限り、各種帳簿、帳票等を活用する。

5 調査スケジュール

区 分		1日目		2日目	
		12:45	21:30	12:45	21:30
調査項目	単位能率調査				
	工程別物数調査				
調査員	夜勤				

6 調査員

調査員は支社社長とし、郵便局社員は工程別物数及び代表物数の調査（査数）を行う。

大型生命共済「きずな」に加入しよう！！

安心価格の掛金で、死亡時には最高4,000万円まで補償する生命共済「きずな」。皆さんは、ご加入されておられますでしょうか？

掛金は毎月支払い方式。積立額の見直しも毎年可能。

剰余金は配当金として還付されます。※過去5年間の平均配当は32%
年齢性別に関係なく一律の掛金なので相互扶助を実感できます。

障害持約にも加入する事ができ、スポーツのケガでもバッチリ補償！！

家族も安心する共済である生命共済「きずな」

ただし、新規お申し込み募集中(2014年8月1日より効力発生)

なお、今回分は2014年5月26日までのお申し込み期限となっております。

未加入の方は、是非この機会にご検討を！！

詳しくは、組合役員まで！

日
刊

日
刊
ア新東京

No.1365

2014年 5月 15日(木)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

通販ソリューション展への参加

日本郵便より、「通販ソリューション展への参加」について、説明がありました。

具体的には、14日から3日間で開催される「第2回通販ソリューション展【春】」という商談のための展示会に参加し、2014年度中に本格スタートする予定の①ECサイト構築システム、②クラウド型B to C受注システム、③クラウド型B to C受注システムオプション、④クラウド型B to B受注システム、⑤クラウド型出荷システムと、すでに稼働している⑥日本郵便WMS（倉庫管理システム）を組み合わせ、通販事業者に対して「通販フルフィルメントサービス」を提供する企画について提案を行うというものです。

本部は、「通販フルフィルメントサービス」の具体的なイメージについて質しました。

会社は、①JPメディアダイレクトによるDMの制作や差出代行、②全国の郵便局を広告媒体として活用する宣伝・販売促進、③受注・決済支援、④ロジスティクス支援、⑤配送サービス——等について、ストップで請け負うことにより、顧客創造からお届け後のケアまで、通販ビジネスをトータルのサポートしていくものであるとしています。

本部は、ひとまず会社の説明を受け止め、本件について了とし、今後は、各種システムの構築状況等を注視するとともに、通販フルフィルメントサービスの展開に向けて、必要な対応をはかっていくこととします。

告 示

日本郵政グループ労働組合 新東京支部

第 10 回支部委員会

日本郵政グループ労働組合規則第 82 条に基づき、日本郵政グループ労働組合新東京支部第 10 回支部委員会を下記のとおり召集する。

記

1. 日時 2014年 6月 1日 (土) 13時 00分～18時 00分

2. 場所 江東区文化センター 第 4・5 研修室
〒135-0016 東京都江東区東陽 4-11-3
TEL03-3644-8111

3. 議案 (1)第 7 回全国大会議案討議
(2)その他

以上

2014年 5月 9日
日本郵政グループ労働組合
新東京支部
支部長 荒牧栄司

風化させない
被災地の郵便局は今

岩手県リアス支部

熊谷 洋一 書記次長



・支部内の郵便局の状況

仮設局で営業しているのは9局(うち2局は建て直して本設置)、まだ再開できないのは6局、修繕して使っているのが2局。(箱崎局—表紙—中央右の写真—は最初、移動郵便局であり現在も車両で営業しているため、扱いとしては再開していない局)

再開できない局は、津波被害で住民が住んでおらず利用者が見込めないという理由もある。今後、復興住宅ができれば、その周辺に建てたほうが良い。沿岸から内陸に引越した住民が多く、利用者が減少した局は多い。人が戻らない限り、再開できない。

・支部組合員の住宅は

正確な人数はわからないが、まだ仮設住宅にいる方は多い。釜石は被災地の中では比較的早く復興住宅の募集が始まっている。住んでいたところから離れて自分で家を建てた方もいる。

・震災から3年経ち、今思うこと

あまり変わっていない。特に家を失くした方は、まだきつい状況。先が見えず、被災者でありながら仕事もしなければならない。生活が通常に戻るのはいずれから。少しは良くなっていると思うが、それが感じられず仕事も落ち着かない。なんとか震災前のように戻りたいが、まだ非常時の状態が続いている。全

国から工事車両などが来ていて道路は渋滞し、通勤に前よりも時間がかかってしまっている。

・2年前のインタビュー時と比べて、変わったこと、変わらないこと、また、良くなったこと、悪くなったこと

変わったことは、組合の活動に普通に組み入れるようになった。役員も少し余裕が出てきて、支部活動ができるようになり、通常になりつつある。

仕事の面では、2年前と人の流れが変わり、以前利用者が少なかったところで人が増え、反対に多かったところで減ったりしている。

変わらないことは、支部でイベントを開催したくても、集まる場所、駐車場、宿泊場所がなくなってしまった。

悪くなったことは、外務の要員不足。平常時でも常時不足している。建築関係は時給が高く、郵便局に人が集まらない。

内務では社員が少ない局に利用者がどんどん来て、社員が多い局には利用者があまり来ないというアンバランスが出てきている。調整を図ろうとしているが、なかなかうまくいかない。

・今一番取り組むべき課題

支部内に被災格差が生じている。生活再建に専念して余裕がない場合は、支部活動に参加できなくても仕方がない面がある。被災した組合員は、そうでない方と比べ疲れていて、普段は気を張っているのに、ミスをするとなダメージが大きくなってしまふ。家族に病人がいれば、心配で落ち着くこともできない。そういった方たちの声を吸い上げて、負担を和らげていきたい。

要員不足で計画年休がいっぱい残っていても人手不足で休めない。職場環境も仮設局舎や間借りしている局は、夏は暑くて冬は寒くトイレが外にある等、整っていない面がある。いつになったら改善されるのか、先が見えないのが辛い。人事異動も自宅から遠く離れてしまったりしている。行政は区画整理の計画を立てているが、土地所有者・住民との交渉が長引きそうだ。

・支部として今後力を入れていきたいこと、また、改善すべきこと

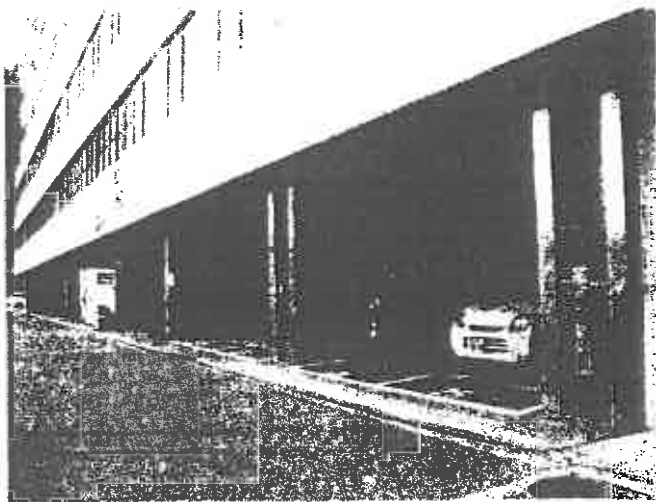
力を入れたいのは、組合員との往復運動。震災時、物資もそうだが、情報がほしかったという声が多い。組合の原点は要望を聞くこと。その手段として小規模でも集会を継続させ、少しずつ参加者が増えていけばよい。

改善点は、連絡体制・危機意識。毎月11日は「震災を考える日」としているが、最初に比べ活動が活発でなくなってきた。南リアス支部では、何か形になるものを残そうと震災体験をまとめた文集を作成する計画をしている。

・JP 労組に期待すること

支部役員としても感じるが、自分たちの生活を本当に変えたいなら、直接参加して行動に移すことが大切。一組合員とも情報・意識を共有して、一丸となれるような運動を展開してほしい。職場環境・労働条件の整備を何とかしてほしいという、多くの組合員からの声を受け止めてほしい。

JP 労組新聞などで被災地の状況を取り上げてもらうのは、風化を防ぐ面からもありがたい、継続してほしい。



熊谷書記次長が震災当時勤務していた釜石浜町局跡。震災当日は着の身者のまま近くの中学校へ逃げ、食べ物も水もなく、雪と風の中一晩中校庭にいた。

・全国の仲間へメッセージ

全国の仲間からのメッセージに助けられ、支えになった。支援物資・義援金等は、組合の力を感じた。義援金も全国から集まれば大きな額になった。人と人とのつながりの大切さに改めて気づかされた。

今度は自分たちが全国にお返ししていきたい。震災はいつどこで起こるか分からないので、皆さんも自分にも起こりうることであり、考え、備えてほしい。

公 示

J P 労組新東京支部 第10回支部委員会 支部委員定数

日本郵政グループ労働組合新東京支部第10回支部委員会の支部委員定数は下記のとおりとします。

記

1. 立候補届出締切日 2014年5月23日(金) 17時30分
2. 支部委員定数 下の表のとおり
3. 場所 江東区文化センター 第4・5研修室 13時～

分会名	第6回支部大会 定数(参考)	定数	調整定数	合計
第1普通分会	6	3.0		3
第2普通分会	6	3.0		3
第1特殊分会	5	2.5	0.5	3
第2特殊分会	10	5.0		5
第1輸送分会	7	3.5	-0.5	3
羽田分会	3	1.5	0.5	2
窓口分会	5	2.5	-0.5	2
第1・2ゆうパック分会	2	1.0	1.0	2
第3ゆうパック分会	8	4.0		4
総務分会	2	1.0		1
郵便企画分会	3	1.5	-0.5	1
女性フォーラム	3	1.5	-0.5	1
合 計	60	30	0	30

2014年5月12日

日本郵政グループ労働組合
新東京支部選挙管理委員会
選管委員長 千葉 哲三

野球サークル『新東京』

～「東京かんぽSC」と練習試合で惜敗～

5月10日(土)、夢の島野球場において「東京かんぽSC」と練習試合を行いました。

当日は強風の為、土煙りが舞う悪条件の中、試合開始!

初回、エースの渡部がランナーを出しながらも0点に抑え、その裏、先頭打者松木の右中間へ抜ける二塁打を皮切りに2点を先制!!

その後は、全国大会優勝チームの貫録を見せつけられ、逆転を許しましたが、なんとか追いつきむかえた5回裏。渡部の三遊間のヒットで勝ち越し!! 尚も1点を加えました。

「まさか、勝てる??」と思った矢先の7回。1点差に迫られた後、相手の4番打者に逆転の2点本塁打を浴び、時間切れの為試合は終了しました…。

5月21日(水)に、中央連協野球大会が夢の島野球場で行われます。1回戦は、9:00～vs東京郵便輸送です。

3年目をむかえた野球サークル『新東京』は、優勝目指して戦うので、たくさんの応援をよろしくお願いします!

キャプテン 石井

	1	2	3	4	5	6	7
かんぽ	0	0	1	2	0	0	3
新東京	2	0	0	1	2	0	

日 刊
戸新東京

No. 1 3 6 9
 2014年
 5月21日(水)
 日本郵政グループ
 労働組合
 新東京支部
 広報部
 03-5606-6784
 内線 4353

一特分会会議開催!

五月十八日(日)、第一回一特分会会議を開催しました。勤務前や、勤務終了後、休みや明け、夜勤の休憩時間に来てくれた人も含めて、総勢八名が出席しました。阿部書記長の司会の

もと、始めに、高橋分会長のあいさつがありました。次に、佐藤執行委員から、執行委員会の報告をうけました。そして、いよいよ本題の、全国大会の議案書についての討議の予定のはずでしたが、まだ

届いていな
 いので、予
 定を変更し
 て、今まで
 行われた色
 々な会議の
 報告をうけました。特
 に、共済と組織拡大の
 話は重点的にし、みんな
 なで意思疎通を図りま
 した。最後は、これか
 らの分会活動を盛り上
 げていくことを確認し、
 次回の分会会議の日程
 を決めて、終了しまし
 ました。



女性の組合員のつどい

～心とカラダのデトックス～

開催日時 2014年6月29日(日)
受付 12:00～
第1部 12:30～15:20
第2部 16:00～18:00

会場・内容

第1部 新宿郵便局 8階

①特別講和「組合活動とは」

～JP労組が女性組合員に求めること～

②シニア野菜ソムリエ 武田 由季さん 講和

第2部 新宿住友ビル50階

THE WINE BAR

「JP労組東京サンセットビュッフェ」

定員 80名

参加費 1000円

参加したい方は、5月29日(木)までに、支部執行委員か、分会役員に声をかけて下さい。

日 刊
ア新東京

No. 1370

2014年
5月22日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

新たな人事・給与と制度関連

「先行導入する業績手当」について

「なぜ給与が下がったのか？」

多くの職場組合員から「なぜ給与が下がったのか？」等の質問について、これまで周知してきましたが、改めて五月給与支給にかかわる概要等をお知らせします。

★給与明細書の「基本給」の減少
基本給は「各種調整額」を含

んで構成されています。その調整額の「郵便業務調整額」が業績手当へ移行するため、四月から廃止となり、「基本給」の金額が減少しています。

郵便業務調整額の支給金額

一三、一〇〇円(A区分)

一〇、〇〇〇円(B区分)

一、〇〇〇円分は来年四月まで支給されます。

なお、一、〇〇〇円以外の原資

は「四月実績分の原資」として、六月に支給(業績手当は二ヶ月後の支給)となります。
★基本給に含まれている主な調整額について

・役職調整額

総括課長(三二、七〇〇円)、課長(二五、五〇〇円)、
課長代理(二三、〇〇〇円)、
主任(二、八〇〇円)

新制度では総括課長手当(九、〇〇〇円)以外は役割基本給へ移行

・職能調整額

四級(八、一〇〇円)、三級(五、四〇〇円)、二級A(九、四〇〇円)、
二級B(四、七〇〇円)、一級(三、二〇〇円)

役割基本給へ移行

・郵便業務調整額

A区分(一五、一〇〇円)、

B区分(二二、〇〇〇円)
二、〇〇〇円は役割基本給へ、その他の業績手当へ移管

★調整手当は「基本給の月額＋扶養手当月額合計」で算出。

四月から「基本給の郵便業務調整額(二、〇〇〇円以外)」が業績手当に移行したので調整手当支給対象者は減少。

★業績手当に移行する「調整額及び手当」について

・郵便業務調整額の一部(A区分一三、〇〇〇円・B区分一〇、〇〇〇円)

・旧営業手当(カタログ販売に関する手当を除く)

・業務関連手当

外務業務手当・配達能率向上手当・外務業務精通手当・外務業務

支援手当、区分能率向上手当・内務業務精通手当・内務業務支援手当

※早出勤務等手当、夜間特別勤務手当、非常災害復旧作業手当および年末年始勤務手当は、引き続き従前どおり支給。

★業績手当に移行となる「調整額及び手当」は五月支給分はありません。

★四月支給(三月実績)となった「外務業務手当・配達能率向上手当・外務業務精通手当・外務業務支援手当、区分能率向上手当・内務業務精通手当・内務業務支援手当」の四月実績分の原資は、六月支給となりますので五月に支給されません。

ただし交渉の結果、激変緩和措置として「五月に郵便業務調

整額の一ヶ月相当額を支給」となりました。
減額される原資は、すべて二ヶ月後の業績手当の原資になります。

★現給保障(二〇一五年四月一日実施)新制度における基本給が「現行制度における基本給額を下回る場合」に現給保障となります。(業績手当に移行する手当は現給保障にはなりません)

なお、東京地本としては東京支社に対し、特に五月給与に関する丁寧な社員周知を申し入れてきたところですが、東京支社独自に社員周知用ペーパーを作成して対応するとの回答を引き出したところです。

日 ア新東京 刊	No. 1371	2014年5月23日(金)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

大型郵便物用区分機の更改について

東京支社より、新東京郵便局の大型郵便物用区分機の更改について説明がありました。

【概要・目的】

現行の大型郵便物の処理を効率化するため、大型郵便物用区分機1台を高速区分機に更改するとともに、ケース搬送ラインの改造工事を実施するというもの

【更改工事時期】

平成26年5月下旬から同年11月下旬

【大型区分機（高速型）の特徴】

○処理対象

最大：長さ400mm×幅300mm×厚さ30mm

最小：長さ140mm×幅90mm×厚さ0.18mm

○処理速度 32,000通/時（4供給部）

○口数 300口

○ケース運用 全自動（補充および払出）

【その他】

更改期間中の必要な人件費については、要員担当から別に通知があります
 なお、大型郵便物用区分機（高速型）配備後の要員措置については、本格運用開始後の実施状況を見て行う、としています。

東京地本は、工事期間が遅れば、年末年始繁忙に大きな影響が出るのが想定されるとし、工事の進捗状況の把握については、支社として支社として注視していくよう求めました。

「郵政未来研究会（みらい研）」の 会 員 募 集 中

働くものの公正・公平そして安心・安全に働き暮らしていくことのできる社会と郵政事業を守り発展していく政策の実現を目指しJP労組の政治活動を推進していくことを目的に郵政未来研究会を設立しました。

郵政事業・税制・環境・教育・社会保障・平和…私達の暮らしと未来は政治と密接に関係しています。

私達の強い意志が公正な社会を創ります。 詳しくは組合役員まで…

プルタブ回収運動で 車椅子を福祉施設に送ろう!!

新東京支部から始まったプルタブ回収運動!!

休息室で飲んだ缶コーヒーや缶ジュースについているプルタブ…捨てればただのゴミですが回収すれば、立派な車いすに変身します。

一つ一つではちいさなプルタブ…みんなで集めれば大きな運動になっていきます。 詳しくは組合役員まで…

エコキャップ回収運動で 世界の子供たちにワクチンを送ろう!

「エコキャップ運動」は、まだあまり聞いたことのない方もいるでしょうが、「ペットボトルのキャップ」を回収し世界の子供たちにワクチン（ポリオなど）を提供している団体に寄付するものです。

一つ一つではちいさなエコキャップ…みんなで集めれば世界の子供たちのワクチンになります。

みんなの力でエコキャップ回収運動を継続していきましょう。

詳しくは組合役員まで…

日 刊 新 東 京	No.1372	2014年5月26日月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

(新)一般職(郵便コース)の中途採用

- 1) 本部は、昨年「必要労働力の早期確保と安定化に向けた要求交渉」と年明け「業務運行の安定化と郵便再生の実現に向けた要求交渉」等を通じて、正社員比率の向上が急務であるとの判断から、来年度の新卒採用等について一定の上積みをはかってきましたが、労働市場が逼迫している状況下において、(新)一般職の中途採用を実施するよう強く求め、会社から「検討する」との回答を示させました。
- (2) 引き続き「2014春季生活闘争要求交渉」において、会社から「特に要員確保が困難と思われる地域について2014年度中の正社員の追加採用(中途採用)を実施する」との回答を示させ、その後、具体的な採用時期および採用数等について早期に示すよう交渉を重ねてきた経緯にあります。
- (3) そうした経緯を経て、「(新)一般職(郵便コース)の中途採用」の具体的な考え方が示されました。

2. 主な交渉内容

- (1) 本部は、採用エリアおよび採用数の選定・算出根拠について質しました。会社は、①算出上の要員数(正社員数)と現状の配置数との乖離、②超過勤務の実績、③労働市場の状況(有効求人倍率等確保困難度合い) — 等を総合的に検証し、特に面(エリア)での要員確保が困難となっている地域を対象に、正社員の必要補充数を積み上げたものであるとしています。
- (2) 本部は、月給制契約社員から(新)一般職への登用は行われたものの、短時間社員・時給制契約社員から(新)一般職への登用は2015年4月の実施予定となっていることから、今中途採用における部内からの採用の考え方について質しました。会社は、特に要員確保が困難と思われる地域での追加採用(中途採用)であるため、基本的には外部からの採用を考えているが、当然ながら部内からの応募を妨げるものではなく、応募フォームに郵便局での勤務経験を記載する欄を設けており、部内者からの応募も想定しているとの考え方を示しました。
- (3) 本部は、応募資格としての年齢制限は法規上問題ないのか質しました。会社は、雇用対策法により、労働者の募集・採用時の年齢制限は原則禁止されているが、一定の条件のもと認められており、期間に定めのない正社員の募集・採用にあたっては、長期勤続によるキャリア形成の観点から可能との見解を示しました。

(新) 一般職 (郵便コース) の中途採用について

郵便事業の労働力確保のため (新) 一般職 (郵便コース) の中途採用を実施する。

1 スケジュール

2014年5月22日～	周知開始
5月28日～6月17日	応募受付
6月2日～	書類選考、適性試験、面接選考
9月1日	採用

2 周知・選考方法

(1) 周知

- ・ 会社ホームページへの情報掲載
- ・ 転職情報サイト (リクナビNEXT) への情報掲載
- ・ 郵便局での周知 (局内掲示板、お客さまロビーへの掲示)

(2) 選考方法

- ・ エリア別に募集し、書類選考、適性検査、面接試験により選考
- ・ エリアは、第1希望から第3希望まで選択可能

3 応募資格

- (1) 学歴 高卒程度の学力を有する者 (職務経歴不問)
- (2) 年齢 45歳まで
- (3) 免許 普通自動車免許又は原動機付き自転車免許
(自動二輪車免許の保持者は優遇)

4 応募方法

転職情報サイト (リクナビNEXT) から応募

※インターネット環境がない場合は郵便局に問合せ

一般職 (郵便コース) 採用予定者数

地域	採用予定者数
関東	約90名
東海	約190名
近畿	約20名
中国	約20名
計	約320名

詳しい募集地域
は組合事務室まで!

統一地方自治体選挙に向けて

具体的取組み

来年4月には統一地方自治体選挙が予定されています。

JP労組東京としては、江戸川区は「中里省三」、江東区は「新島つねお」の2名を組織内候補（予定）として今後の闘いを進める予定となっています。

先日、JP労組東京は「第23回参議院議員選挙の総括」を踏まえ、組合員にとって一番身近な職場での声かけ討議資料の手渡しなど、各種地方自治体選挙にあわせて取組みを図ってきました。

職場において、数次にわたる声かけやリーフの手渡し行動を行うことは、候補者名の浸透をより確実なものとする効果があり、今後の躍進に大変重要な活動と言えます。

併せて、分会役員等とのコミュニケーションを重ねることで、最も重要となる関係組合員・家族が投票所へ足を運ぶ行動につなげて行く取組みでもあります。

中里省三江戸川区議は「江戸川区政ニュース」を年に3~4回程度、新島つねお江東区議は「元気つうしん」を年に3~4回程度発行しており、今後は、在住組合員分について職場手渡しを実施することとしますので、在住組合員の方々は、目を通して頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

新東京支部での対象組合員状況

江戸川区在住	96名
江東区在住	131名
合計	227名



日 刊	新東京	No.1374	2014年5月28日(水)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

データでみる新東京支部の共済

2013年度の総合共済の支払い状況

総合共済の加入者数は、2014年3月末時点で963名です。このうち、2013年4月から2014年3月までの1年間に総合共済から何らかの支払いを受けた件数は、156件でした。約6人に1人の割合で共済金が支払われています。この割合は、東京全体でも同様です。

このうち最も多かった事由は退職お祝い金で63件、次に組合員の親死亡で28件、小学校入学祝い金16件、組合員傷病15件となっています。以前は小学校入学祝い金が1位でした。特に新東京は近年、対象件数の減少が顕著です。少子化の影響が如実に反映されています。

2013年度の医療共済マイガードの支払い状況

医療共済の加入者数は、2014年3月末で組合員の家族を含めて227名です。また、ポストライフ加入者1125名のうち、本人の契約件数は114名で、加入率は11%になります。東京全体では6%程度ですので、新東京は高い加入率となっています。総合共済と同様、昨年度1年間で支払われた件数は19件で190万円になりました。加入者のほぼ10人に1人の割合で支払いを受けています。人間ドックで異常が見つかり、日帰り手術を受けたという例などが増加しています。マイガードは退職後も引き続き加入できますし、掛金40パーセント割引の適用も継続されます。今最もニーズの高い商品となっています。

掛け金の安さが魅力です

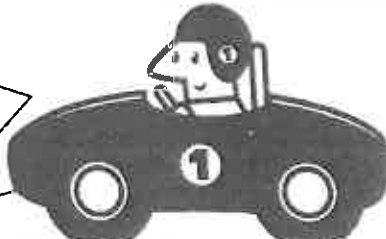
ポストライフのマイカー共済

1500ccクラス 35歳以上担保

本人と配偶者のみ担保 17等級

対人無制限 対物無制限 人身5000万

の場合...



掛け金を比べてみると違いがはつきり

一般的な損保会社だと... (T社の場合)

月々 3050円

ポストライフのマイカー共済では...

月々 1390円



事故に遭ったときも安心バックアップ!!



事故発生時

事故受付

休日・夜間を問わず、24時間 365日

マイカー共済
損害事故受付センター **0120-0889-24**

【初着電話・PHSからもご利用いただけます】

※ 直ちにご連絡いただけない場合でも、事故現場から24時間以内にご連絡ください。

※ 自動車共済のみ加入の場合は、加入時に申し込む自動車共済のしおりに記載している番号の「無料サービスセンター」にご連絡ください。

オハヤク
フーナー

現場急行

現場急行サービス 24時間 365日

事故現場からご連絡をいただき、お客様の要請があれば全労済が委託したスタッフが現場へ駆けつけ、事故状況やお困りの点をお聞きし、ご安心をサポートします。

※ 正対車の事故に限ります。

※ 原則として、対応員の居住地からの事故現場まで24時間対応できること(遠征費等一部の費用を別記)が条件となります。

※ 本サービスは地域によっては、お電話でのご利用やアドバイスにのみ対応している場合があります。

第七回定期全国大会に向けて

問題・意見の声をあげていく

六月一八日から名古屋市中で第七回定期全国大会がおこなわれます。

新東京支部は六月一日に支部委員会を開催して問題点、要望など意見集約します。

時間があまりないのですが、家庭に送られている議案書を見て検討して下さい。

第一号議案では、とりまく情勢と2013年度の運動を振り返って、2014年度の重要課題として、

3カ年計画となるグループ会社中期経営計画を確実に実行させるため、労働組合のチェック機能を最大限発揮していく。株式市場に向けた中で、組織の活性化・再構築による組合員の求心力を高め、郵政グループの持

続的な成長・発展に向けた取り組みを強化することなどJP労組の当面の対応方針を確立することが提起されています。

主要課題は

- ① 郵政グループの持続的発展に向けた取り組み、
 - ② 五年総括および今後の対応、
 - ③ 組織活性化の取り組み、
 - ④ 組織財政改革の取り組み、
 - ⑤ 三〇万人組織建設と組織強化の取り組み、
 - ⑥ 人事・給与制度と労働力政策
- 一つひとつ丁寧に職場との往復運動を行いながら取り組んでいくことが提起されています。

2014年度の重要課題

☆郵政グループの持続的発展に向けた取り組み

☆「五年総括」と今後の対応

☆組織活性化の取り組み

☆組織財政改革（組合費など）の取り組み

☆三〇万人組織建設と組織強化に向けての取り組み

☆組織現状・組織建設における課題

☆ユニオン・シヨップ協定の締結に向けた環境づくり

☆政治基盤の強化と郵政未来研究会（みらい研）加入拡大の取り組み

☆新人事・給与制度について

☆労働力政策（局所等別所要人員数）について

2014年度の具体的活動として次の点が提起されています。

☆福祉型労働運動の本格展開

☆男女共同参画社会の実現

☆ユースネットワークの活動

☆女性フォーラムの活動

☆教育活動

☆国際活動に向けた取り組み

☆福祉共済活動

☆連合を中心とした共闘・連帯

活動

☆「J-P労組退職者の会」の設

立と今後の取り組み

☆広報活動・文化・レク活動

☆J-P総研の活動

以上です。

詳しくは自宅に配送された議案書を参照して下さい。

・三年連続の一時金カットと1000円の「賃上げ」に終わった春闘。4月からの消費税増税8%と人事給与制度によって基本給切り下げという厳しい状況になっています。このことをどう見ていくのか。

・組織財政改革として組合費を3000円～5000円にしていくことが提起されています。

・日本は軍国主義国家になるのか？という将来を決めてしまうような安倍政権による集団的自衛権行使の合憲化を進める危険な動きについて触れていません。事業と私たちの生活を見つめていきましょう。

日
刊

JP新東京

No.1376

2014年5月30日(金)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部

03-5606-6784

内線 4353

第7回支部執行委員会を開催

5月22日(木)13時から、第7回支部執行委員会が開催されました。

前回は、羽田分室で行われた執行委員会でしたが、今回は、新東京郵便局内1階の応接室にて行われました。

当日は、勤務時間の調整していただき、執行委員14名が出席しました。

支部長・書記長会議の報告から始まりました。

まず組織拡大について、7月の地方大会までには、東京の仲間を32,000名にしたいので、引き続き組織拡大を続けてほしいとのことでした。

4月に「JP労組退職者の会」の東京地区が、3300名で設立しました。

政治の方では、来年の春に行われる統一地方選挙に、江東区議の新島さんと江戸川区区議の中里さんを東京地本の組織内候補として応援しますので、それぞれの区に在住している組合員へ、声かけをしていきます。

働きやすい職場を作るために自分たちの意見を政治に反映するために作られた、「みらい研」の加入があまりすすんでいないので、推進するようお願いします。

新西東京郵便局(仮称)については、前回の執行委員会から新たな情報はなく、〒16~〒18の地域区分局として開設するとのことでした。現在、近くに路線バスはなく、最寄の駅からも遠いので、通勤手段がどうするかを検討しているとのことでした。

全国大会の代議員については、当支部が所属している中央連協選挙区が、定数12に対して立候補が14になりましたので、代議員を選ぶ選挙が実施されますので、投票期間内に、投票がされるように実施して下さい。

ひと通りの報告後、5/25に行われる、東京国際支部と合同で実施する、江東区まちをきれいにする運動についての詳細の確認を行いました。（掃除する場所、時間など）

その後、第10回支部委員会を2014年6月1日（日）13時から江東区文化センター3階 第4・5研修室にて開催するところが確認され、主な議事内容は、第7回全国定期大会で検討される議案についてです。

その後、各専門部からの報告があり、組織部からは、5/9に行われた、組織部と共済部の合同会議の内容が報告され、広報部から、平和に関する取り組みを行いたいとの報告がありました。

今後の日程

- | | |
|---------|------------------------|
| 6/4 | 野球部 中央連協大会（新木場；夢の島野球場） |
| 6/8 | 東京フェスタ（東京ドームシティホール） |
| 6/15 | パートナー組合員交流会 |
| 6/18～20 | 第7回定期全国大会（名古屋） |
| 6/29 | 第2回女性組合員の集い |
| 7/3 | 支部執行委員会 |
| 7/16～17 | 第7回定期地方大会（鬼怒川） |
| 8/24 | 第7回定期支部大会（江東区文化センター） |

共済部からのお願い。

総合共済未加入による共済金が支払われない事案が、発生しております。定年退職で再任用される場合でも、一旦、定年退職日である3月31日に総合共済が終了します。

再度、労働組合に加入した場合も、再度総合共済に加入（申込）をしてください。

未加入の方は、この機会に総合共済に加入を検討してみても、いかがですか。

ご自身が、総合共済に加入しているかどうかを確認したい時は、支部事務室にいます共済担当へご連絡ください。

（すぐにお調べいたします。）

